

分析単位地区としての地域メッシュ統計の有用性と可能性 —東京大都市圏における分析から—

小泉 諒（首都大学東京 大学院生）

近年、統計データならびに地物データのデジタル化によって入手の可能性や加工の容易さが高まり、「地図による表現」は、地理学以外からもいっそう多く用いられるようになった。しかしながら、統計データと地図化から地域性を明らかにする際には、空間的自己相関ならびに可変単位地区問題は依然として重要な問題である。本発表の前半では、大都市部における現代社会の問題を地理学で扱う事例として、1990年代以降に指摘された「パラサイト・シングル」の要因と分布を、パス解析と空間的自己相関係数を用いて明らかとした。本分析からは、パラサイト・シングルの分布の空間的パターンとその要因には、男女や年代別の地域差がみられることを明らかにしたが、ローカルモデルによるさらなる分析可能性が示された。後半では、可変単位地区問題について、東京大都市圏における職業構成の空間的パターンとその変化から明らかとした。市区町村単位の分析と地域メッシュ統計の分析を比較した結果、地域メッシュ統計には面的な連続性を考慮した分析単位地区としてすぐれた特性を持ち、市区町村単位の集計では明らかにされない詳細な空間的パターンやその変化の把握を可能とさせた。